

シリーズ 対馬ぐらしのススメ

対馬で暮らす移住者に聞きました！



自分の思いを受け止めてくれた対馬！

今回は、大学生の時に対馬を訪れたことをきっかけに、1ターンで対馬ぐらしをスタートした^{もり が ゆう た}森賀優太さんと^{かわ ばた ゆう か}川端優花さんにお話を伺いました。ともに24歳、インターン先に対馬を選び、対馬で暮らすことを決意するという同じ境遇の2人ですが、海と山、それぞれのフィールドで対馬の課題解決のため奔走する二人の生き方とは。

※インターン…社会に出る前の学生が、企業などで実際に仕事を体験することです。



自分の経験を活かして対馬と関わりたい！

より良い社会に変えようと 生きる人たちと関わりたくて

愛媛県出身 森賀 優太さん

社会での立ち位置を探して

「今後の人生の中で、自分も地域づくりに関わることができる場所がいいと思い、日本各地を調べる中、変化の途中にあるのが対馬だと思いました。」

大学で国際関係学を学んでいた森賀さんがこれからの社会の在り方を学ぶ上で、持続可能な地域づくりを行うために必要なヒントを探ることができるのではないかと選んだのが、対馬でのインターンでした。社会の資源循環に取り組む上県町の一般社団法人MITを受け入れ先に、4年生の夏に対馬を初めて訪れました。

3か月のインターンでは、会議などの議事録を作成するなど、色々な活動に関わりました。そのような中、大きな転機になったのが、休日の丸徳水産でのアルバイトでした。

「休日に暇を持て余していたところ、インターンで知り合った丸徳水産の犬束社長に誘われ、アルバイトさせていただくことになりました。バイト中は住み込みで働き、仕事が終わって、犬束さんのご家族と一緒に食卓を囲む中で、皆さんが熱い思いで対馬と向き合っていることを知り、私もその思いの輪に加わりたと思うようになりました。」



自らを売り込み、再び対馬へ

「インターンを終え、対馬への思いは強くなる一方でした。犬束社長にも、卒業したら対馬に來い！と言われていたのですが、今の自分が対馬に行っても、はたして役に立つのだろうかという不安が大きく、あと一歩が出ない状況でした。」



丸徳水産では、対馬の水産業を元気にすることで、地域の活性化につなげようと様々な取り組みを行っています。その中で、自らの居場所が作れないかと考えた森賀さんは、これまで培った経験をもとに、新たな事業を提案するプレゼンテーションを行い、自らを売り込みました。

「食や漁業体験を通じた水産業や地域の振興に取り組む丸徳水産の事業は、交流人口を増やす必要があります。より漁業の現場に近いところに人を送り込むにはどうしたらよいか考えた時、学生時代に経験のあった空き家を使ったコミュニティスペース作りが役に立つと思い、地域の空き家を改装した宿泊事業を提案しました。結果、新規事業として採用いただき、私もその担当者として働くことになりました。」



現在、森賀さんは、丸徳水産の社員として、美津島町女護島地区の空き家を改装し、1棟貸の宿泊施設オープンに向け準備を進めています。

「対馬に來た人に、対馬のことをより深く知ってもらうためには、島の人たちの暮らしが見える場所で寝泊まりしてもらうことがとても大事だと思うんです。地域の中に宿泊施設があることで、それが容易にできるようになります。20年後、対馬がより輝いた地域であるために、島の中と外に、対馬を大切に思ってくれる人をもっと増やしていきたいと思っています。」

生き方のヒントを探し、導かれた対馬

大分県出身 川端 優花さん

縁が導く対馬との出会い

「3年前、友達に誘われて旅行で訪れたのが、はじめての対馬でした。旅行中に訪れた土産屋さんで、ある小さなショップカードに惹かれたんです。そこには「獣害から獣財へ」という言葉が書かれていました。それがdaidaiとの出会いでした。」

環境問題に関心を持っていた川端さんは、学生時代、自分にできることをと、ある選択をします。

「環境問題は日々の生活の積み重ねから生まれます。何気なく口にするお肉も、環境に負荷をかけながら育てられていました。そこで私は、考えるきっかけにと、お肉を食べることを減らしました。同じころ、狩猟体験ツアーに参加し、駆除された動物が、食べられることなく埋められているということを知りました。環境に負荷をかけながら作る肉と、捕獲されても、捨てられるだけのお肉があることにモヤモヤし悩んでいた頃、daidaiに出会い、獣害の現場やお肉づくりを学ぶため、休学してインターンすることを決めました。」



松井さん（写真左）と一緒に作業

「捕獲からお肉づくり、皮の活用まで広く学びました。スタッフの松井さんの丁寧で美しい作業をそばで見たことで、作り手や過程がわかるお肉ってこんなにいいんだということを知りました。食べないことが環境にやさしいだけではなかったんです。」

対馬は今、イノシシやシカによって山の下草が食べ尽くされていて、畑では大切に育てた野菜をダメにされ悲しんでいる人たちがいます。しかし、増えすぎたシカやイノシシも、地域の資源として、獲ってお肉にしたり、革にしたりすることで、おいしく、楽しく、人の暮らしや環境を守ることにつながるということを学びました。」



安心して暮らしていける島

約7か月のインターンを通じ、島の暮らしを体感した川端さんは、daidaiに入社。対馬で社会人と大学生の2足のわらじを履きながらの生活をスタートさせました。（今年3月に卒業）



対馬で暮らす大切な仲間とともに

「今、獣害によって、大好きな対馬の自然や暮らし・文化が、失われつつあります。そのことを寂しく思い、何かしたいと考えた時、対馬で暮らすことを決意しました。自分に何ができるかわからなかったのですが、まずは自分が失敗を恐れず安心して挑戦できる環境に身をおくことが、私にとって一番よいと思ったんです。」

インターン中、たくさんの方と出会い、人の温かさや優しさに触れ、何度も助けられながら過ごした対馬は、安心して飛び込むことができたし、なによりも対馬の暮らしが楽しかったんです。

私は、対馬の獣害の一番の要因は、里山や野生動物と関わる人が減ったことだと思います。「害」を「財」とポジティブな見方に変えて、今以上に関わる人を増やしていくことがとても大切です。

お肉を食べること、レザー製品をつかうこと、作ること。楽しく関われる方法は実はたくさんあります。対馬で暮らす私たち一人一人に合った、心地よい関わり方を見つけるお手伝いをしていきたいです。また、被害に困っている人が一人でも多く減るように捕獲も頑張って、みんなが安心して楽しく暮らし続けられるように守っていきたいです。」

島暮らしを始めるお手伝いをしています！

毎年、100人を超える人たちが、対馬へ移住しています。対馬市では、多くの方に対馬の魅力を感じてもらい、移住先に対馬を選んでもらえるような取り組みと、移住される方、された方へのサポートを行っています。

引越経費支援

市外からの荷物の運搬にかかる経費

※補助対象経費の3分の2以内



上限
20万円

住宅借上初期費用支援

民間賃貸物件を借りる際の初期費用

※補助対象経費の一部



上限
5万円

子育て世帯移住支援

中学生以下の子どもを扶養している世帯



2万円
×中学生以下の子ども的人数

住宅家賃支援

民間賃貸物件を借りる際の家賃

※家賃月額の2分の1



上限
3万円
×3月分

奨学金返還支援補助金

高校・大学などにおける奨学金の返還額



年間上限
24万円
5年間まで

ふるさと就職奨励補助金

学校卒業後2年以内の方で島内企業に就職して1年以上経過した方

10万円

ひとり親家庭移住支援補助金 就労奨励支援

中学生以下の子どもを扶養するひとり親家庭の方の就労を支援

※通算6か月以上就業した方

10万円

ひとり親家庭移住支援補助金 自動車購入費支援

中学生以下の子どもを扶養するひとり親家庭の方の自動車購入を支援

※購入金額の2分の1

上限
30万円

結婚移住奨励補助金

婚姻届受理日前後1年以内に（夫婦または）夫婦のいずれかが市外から移住された方

5万円

移住の下見で来島する補助や、お試し住宅の提供、空き家バンクの整備なども行っています。



詳しくはこちら！

※各補助金には要件があります。詳しくはお問い合わせください



対馬ぐらしフェア

令和7年1月26日(日) 11:00~18:00

(入場無料・15歳以下)

会場 JR博多シティ 10階大会議室

15社程度の対馬市内企業が参加予定です。企業説明や求人案内(ハローワーク)のほか、移住・就業・観光のご相談、お持ちしております。

東郷屋プレゼント、おいしい対馬特産品の1人1個限定プレゼント、アンケートにお答えいただいた方に抽選で豪華プレゼント！

お問い合わせ 対馬市しごとし生活課 (TEL0920-53-6111)

主催 対馬市 対馬市しごとし生活課 対馬市観光協会 対馬市観光協会

対馬ぐらしフェアを開催します

対馬への移住をPRするため、市内企業による就職面談、移住サポート、各種補助金などの紹介を行います。また対馬特産品の「ミニ物販スペース」もご用意しています。

日時：令和7年1月26日(日) 11:00~18:00

場所：JR博多シティ 10階大会議室(福岡市)

主催：対馬市・長崎県対馬振興局・対馬公共職業安定所

問い合わせ 地域づくり課内「しまぐらし応援室」 ☎0920(53)6111